令和元年度「卒業証書授与式」学校長式辞

式　辞

３月に入り、春の空気が、優しく私たちを包み込んでくれているような気がします。

本日、ここに、令和元年度、第７１福井県立高志高等学校「卒業証書授与式」を挙行するにあたり、ＰＴＡ会長、朝倉邦真様、同窓会会長、藤永賢一様、をはじめとして、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、卒業生の皆さんを祝福できますことは、この上ない喜びであります。卒業生、教職員を代表いたしまして、心からお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与した２６６名の皆さん、卒業、おめでとう。
「令和」への改元、大学入試センター試験最後の年という節目の年に加えて、新型コロナウィルスの感染拡大防止のため、在校生が参列しない異例の卒業式となってしまいましたが、一生忘れることのない卒業式を、生徒の皆さん、保護者の皆さんとお祝いしたいと思います。
皆さんは、県下で最も忙しい高校と言われる、高志高校において、三年間の学校生活を終え、本日、卒業証書を手にしました。
今日まで育ててくれたお父様、お母様、家族への感謝の気持ちを忘れることなく、高志高校の卒業生であることに自信と誇りを持って、それぞれのフィールドで、社会に貢献する人生を、歩んでください。

皆さんへのお祝い、今後の人生への期待の言葉は、生徒会誌「みどり葉」の巻頭言の最後に、１０箇条の箇条書きにしました。
自宅に帰ったら、友達の原稿、担任の先生の「贈る言葉」とともに、巻頭言にも目を通してください。
ここでは、２つのことについて、話します。

一つめは、「正解のない問いに解を見つけ、世界の人々を幸せにする、困っている人を、支える人になってほしい」ということです。
小学校以来、皆さんは答えのある問題を出されて、正しい答えを導くトレーニングを積み重ねてきました。限られた時間の中で、いかに正確に、いかにたくさんの正解を導き出すか。
その到達点は、高校入試や、大学入試だったかもしれません。
高志高校に入学してからは、正解のない問いに解をみつけるトレーニングにも取り組みました。
ＳＳＨやＳＧＨの、課題研究が、それでした。
自ら問いを立て、仲間と協力して、実験や観察、調査を行い、質疑応答、議論により研究を評価して、次の研究に向けて、成果と課題をまとめる、というプロセスを、何回も経験しました。
合唱コンクールや学校祭などの学校行事、部活動、生徒会活動も、言わば、正解のない問いに解をみつけるトレーニングでした。
様々な問題に直面し、自分の力の至らなさや、挫折感を味わった人が、いるかもしれません。
一方、仲間と協力して問題を解決することを通して、達成感や連帯感、高校生活の充実感を味わった人も、多かったのではないでしょうか。

それらの経験は、実は、皆さんが、大学や大学院を出て、社会に出てから遭遇する、解決困難な問題を克服するための、予行練習だったのだと思います。
それは、とりもなおさず、校訓である「克己、創造、敬愛」の精神を身に着けるトレーニングでもありました。

今、世界では、国境を越えてひろがる環境問題や、感染症の問題、地域紛争や移民問題、途上国ばかりでなく、先進国にも蔓延する貧困問題など、問題が山積しています。
日本でも、少子高齢化、地方の衰退など、これまで遭遇したことのない問題に、直面しています。

答えのある問題に正解して、合計点を競うという意識から、卒業しましょう。
高志高校での学びに、大学や、大学院でさらに磨きをかけ、正解のない問いに取り組み、納得解や最善解を見つける日々を送ってください。

皆さんの手の中には、未来があります。
誰かが解決してくれるのを待つのではなく、誰かが作った変化に順応するのでもなく、皆さん自身で、変化を生み出しましょう。
その他大勢、普通の人々の集団に埋没するのでなく、リスクをとって、勇気を出して、挑戦する人生を歩みましょう。
そして、世界の人々を幸せにする、困っている人を支えられる人になってください。

２つ目は、母校を応援してほしいということです。
先ほど、理数科と普通科の代表に卒業証書を渡しました。気づいた人も多いかと思いますが、今日の卒業式で、高志高校の卒業生総数が、３万人を超えました。
昭和、平成、令和の３つの時代に亘り、この高校に生徒が通い続けたこと、卒業生が三万人を超えたということに、大きな感慨を抱いています。

皆さんは、皆さんの高校生活が、同窓会の先輩方の、数々の支援に支えられていたことを、知っていたでしょうか。
大学入試に向けて、早朝や放課後、休日にも活用していた自習室、学習室の机や椅子、図書館前廊下の新聞書見台、部活動のトレーニング機器、この冬は出番のなかった除雪機など、学校生活の至るところに、同窓会の先輩方による支援の品々が存在しています。
関東支部の方々が、選択型研修旅行の研修受け入れや、ホテルでの交流会に協力してくださっています。
国際交流事業には「母校応援ふるさと納税」による寄付が活用されています。
「みどり葉会」という同窓会の名前の通り、卒業生と在校生のネットワークが、瑞々しい生命力をもって、世界中に広がっていってほしい、皆さんにも、その一翼を担ってほしいと、希望しています。

最後になりましたが、保護者の皆様には、お子様のご卒業、まことにおめでとうございます。
この世に生を受け、微笑むことしかできなかった赤ん坊の頃から、少しずつできることが増え、と同時に、怪我や病気等、心配なことも増える毎日だったのではないでしょうか。
小・中学校での生活、高志高校での生活を経て、お子様は、心も、身体も、立

派に成長なさいました。保護者の皆様のお喜びは、いかばかりかと存じます。
　また、これまで、本校にお寄せいただきました、格別のご理解と、ご協力に対しまして、教職員を代表して、お礼申し上げます。本当にありがとうございました。

　卒業生諸君、お別れのときです。
　皆さんの人生に幸多からんことを、心からお祈りして、式辞といたします。

　令和２年３月２日

福井県立高志高等学校長　吉田　繁